

魅力満載!! 三江線

江の川沿いの風情



《16》

江津本町は、江の川が日本海に注ぐ江津市の河口沿いの町だ。江の川の舟運と日本海の高運の要所であるうえ、山陰道が町の中を貫き、石見でも銀山に次いで大いにぎわった天領でもあった。

また、幕末から明治にかけては、大村益次郎が参謀を務めていた長州軍の大隊が進駐し、三年間本陣が置かれ、その名残として今も「陣屋」という地名が残されている。私も数年前、「江津市女性の地域づくり塾」で、女性の視点から、江津市の埋もれてしまった地域資源を見直す機会と、江津本町を塾生の皆さんと散策し、普段自動

川岸には回船問屋などの蔵屋敷が並び、北前船の寄港地として、また天領米の積み出し港として、栄えたとされる。

当時は多くの帆船が川岸に集い、あまりの混雑に入港できず、浜田港で



天領江津本町豊街道

古い民家や建造物残る



赤い石州瓦の家々が残り、往時の面影をしのばせる天領江津本町豊街道

車で通り過ぎるだけでは見逃してしまっていた触れた。

特に、本町川沿いに軒を連ねた旧家のたたずま

いは、風情がある。高原家の格子や飯田家の玄関前にある御影石の石橋、荷を運んできた人たちが牛馬をつないでいた鼻ぐり石など、時を超えてここに生きた人々の暮らしの様子を垣間見ることができた。

今、この町では地域の人たちが中心になって、本町の歴史を語り継ぐために、貴重な建造物や街並みの保全に取り組んでいる。先人から受け継いだ故郷の宝ともいえる江津本町は、悠々と流れゆく江の川流域の歴史と文化の象徴でもある、と思う。

ROMANあふれる豊街道で、「ふらり本町散歩」を楽しんでいただきたい。

(NPO法人「結まーるプラス」・かわべまゆみ、江津市桜江町在住)

隔週土曜日掲載